

$$a_{n+1} = rac{ra_n}{pa_n + q}$$
型の漸化式

 $p,r \neq 0$ とする. 漸化式

(i)
$$a_1 = a$$

(ii)
$$a_{n+1} = \frac{ra_n}{pa_n + q}$$

で定義される数列の一般項を求めよう. p=0 なら、これは単に等差数列であり、r=0 なら、定数列である。また、a=0 なら、この場合も定数列となるため、 $a\neq 0$ も仮定する。これにより、任意の自然数 n に対して、 $a_n\neq 0$ である。

漸化式(ii)の逆数を取ることで,等式

$$\frac{1}{a_{n+1}} = \frac{pa_n + q}{ra_n} = \frac{p}{r} + \frac{q}{ra_n} \tag{1}$$

を得る. ここで、数列 $\{b_n\}$ を $b_n=\frac{1}{a_n}$ で定めると、等式 (1) は、

$$b_{n+1} = -\frac{q}{r}b_n + \frac{p}{r} \tag{2}$$

と書ける.

q=r なら、これは単に等差数列であるから、その一般項は、

$$b_n = b_1 + \frac{p(n-1)}{r} = \frac{1}{a} + \frac{p(n-1)}{r} = \frac{r + ap(n-1)}{ar}$$

であり、数列 $\{a_n\}$ の一般項は、

$$a_n = \frac{1}{b_n} = \frac{ar}{r + ap(n-1)} = \frac{aq}{q + ap(n-1)}$$
(3)

と求められる.

 $q \neq r$ なら,(2) は,「 $a_{n+1} = pa_n + q$ 型」の漸化式 1 なので,数列 $\{b_n\}$ の一般項は,

$$b_n = b_1 \left(\frac{q}{r}\right)^{n-1} + \frac{\frac{p}{r} \left\{1 - \left(\frac{q}{r}\right)^{n-1}\right\}}{1 - \frac{q}{r}} = \frac{1}{r^{n-1}} \left\{\frac{q^{n-1}}{a} + \frac{p(r^{n-1} - q^{n-1})}{r - q}\right\}$$

であり、数列 $\{a_n\}$ の一般項は、

$$a_n = \frac{1}{b_n} = r^{n-1} \frac{a(r-q)}{(r-q)q^{n-1} + ap(r^{n-1} - q^{n-1})}$$
$$= \frac{ar^{n-1}(r-q)}{(r-q)q^{n-1} + ap(r^{n-1} - q^{n-1})}$$

と求められる.

¹https://gleamath.com/recurrence-relation03/